ろくおん通信 No. 149

発行日　2007年６月１５日
発行：　盲人情報文化センター録音製作係
〒542-0071　大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号道頓堀千島ビル
電話０６－６２１１－０９１０(録音製作)

聴いてわかる図書を作るために　（第１５回）

疑問符 感嘆符 の読み方

久保　洋子

活字の本では疑問符　感嘆符はかなり多用されています。原本通りだからと云って、これらの符号を全部読むことで果たして原本の内容が正しく伝わるでしょうか。

カッコなどの記号と同様にこれらの符号もあまり頻繁に出てくると、そればかりが耳について内容の理解をさまたげることもあります。

今回は符号の処理について考えてみます。

まず、疑問符。会話文では疑問符のついた文の語尾をあげて普通に会話する調子で読めば符号を読む必要はありません。話の相手が言葉を発しないで「？」と書かれているような時は、前後のつながりで不自然でない短い語（ex.　「ウ」「エ」）などに置きかえてもいいかもしれません。

地の文の時などはどうでしょうか？　この文のように文の形が疑問文になっていれば特に符号を読む必要はありません。

「なまずが騒ぐと地震が起こる？」のように肯定文に疑問符が付いている時はどうでしょうか。会話なら語尾を上げて読むことで伝えられると思いますが、地の文ではそれをすると不自然になってしまいます。会話のようにすぐに答えがきませんので、疑問符のついた文だとは理解してもらえないかもしれません。

こうした時は普通に肯定文として読んで、その後に「疑問符（クェスチョンマーク）」と言い添えるのが確実な方法だと思います。語尾を上げて、その上「疑問符」と読むと、場合によっては誤解をまねくこともあります。

地の文では、疑問文についた疑問符は読まない、肯定文についた疑問符は読む、ということで迷うことなく、正しく伝えられると思います。

次に感嘆符。　これは疑問符と違って文の意味を左右するものではありません。

！！のついた文を読んで　カンタンフ、カンタンフと言い添えても、原文の感じは必ずしも伝わりません。会話では少し強い口調で読むなども考えられますが、地の文ではこれもただ不自然になるだけのように思います。

プラカードに「○○○！」と書かれていた。というような時には「○○○　カンタンフ」と読めばいいと思います。

「原本通り」は、原本にどう書かれているかを伝えることではなく、活字の約束事に従って作られた原本の内容を音声で正しく伝えることだということを、いつも確認することが大切だと思います。

7月 録音製作予定表

自宅録音チーム定例勉強会
10日(火)　『マトリョーシカ』　10時～12時
18日(水)　『はなみずき』　1時半～3時半
26日(木)　『二十四の瞳』　10時～12時

『椿本勝利のフォローアップ講座』
11日(水)　1時～3時
13日(金)　1時～3時

18日(水)　『Mの会』（音声訳のマニュアル検討会）
1時～3時

18日(水)　『わかば』　定例勉強会　10時～12時

スタジオ曜日別定例勉強会
未定　『月曜チーム』
24日(火)　『火曜チーム』
25日(水)　『水曜チーム』
26日(木)　『木曜チーム』
18日(金)　『金曜チーム』
28日(土)　『土曜チーム』

『専門図書音訳チーム』定例勉強会
14日(土)　『古典チーム』　午後1時～3時
20日(金)　『東洋医学チーム』3時～5時
28日(土)　『パソコンチーム』1時半～4時
27日(金)　『英語チーム』　10時半～3時

アンケート実施中

ただ今、録音製作ではアンケートを実施しています。アンケート用紙(B４・ピンク色)の無い方は係までご連絡ください。全員、ご協力お願いします。

ボランティア交流会のアンケートに寄せられた要望・質問と回答

○館で推薦するテープを聴かせて（ペアがいつも決まっているので他の人のを聞きたい）

★校正済みカセットテープをこれまではイレース用の棚に置いていましたが、専用の「試聴用ボックス」に入れるようにします。「試聴用ボックス」のテープは自由に聴いてもらえるようにします。

○関西弁を読めるチームを作っては。関西弁の本は読める人を選んで。

★チームを作るほどではないので、原本の読み手を決める時に検討していく。関西弁ができないのに関西弁の出てくる本が当たったら、開始する前に職員に確認してもらいます。→変更もあり。

○編集者は音訳についての最低の知識を講習して、校正で不適切なことがよくある。

★編集者のフォローアップの講習会を実施していきます。
★編集者の中堅講習も実施していきます。

○新人は新しい本を読むときはベテランとモニターを組ませるようなシステムを。読みのレベルを上げるためにも。

★昨年度より、録音図書製作講習会の期間中に「モニター実習」を取り入れていますが、新人とベテランとペアは予定していません。

○録音図書凡例とデイジー図書凡例の明確な違いはなにか。

★録音図書にはカセットテープ図書やデイジー図書意外にも、市販のＣＤ図書、インターネットを介してパソコンや携帯電話への配信図書などいろいろあります。「凡例」をわさわざ分けているところもあるようですが、情文はあくまでも「デイジー図書」としての「凡例」ということで１本化しています。

○編集者がCD表紙に書くページ数は本文のページか奥付も入れたページか。

★奥付ページを含めたページ数を記入するようにします。
★デイジー編集では奥付はデイジーの本文ページの最終ページに１ページをプラスして付けてください。（原本の奥付のあるページではありません。）

★終わりの枠アナにはページはいれません。

○マニュアルの更新と徹底を　家庭録音の方にマニュアルに即して入れていない方が見られる。

★現在、改訂中です。新しいマニュアルができたら全員に配布します。

○お昼休み以外は静かにして欲しい。モニター時はやかましいです。

★その都度対応します。

○録音製作の流れ、置き場、その他、常に表示するなりして、分かり易くして欲しい。

★配置図を作成し徹底します。

○サウンドホージーでノーマライズといちいちボリューム調整するのとどう違うのか
（どちらにどういうメリットがあるのでしょうか）

★音訳者が訂正した箇所の録音レベルがあわないときはサウンドホージーでボリューム調整します。
★本来、訂正箇所のボリュームを合わせるのは音声訳者（モニター者）が行います。盲人情報文化センターではノーマライズは使用していません。

★各巻のボリュームのバラツキを均一にするにはノーマライズ、部分的な訂正はボリューム調整で行うのが普通です。

○音声訳者、校正者、編集者、デイジー校正者のそれぞれの勉強会を開催して欲しい。

★曜日別チーム・自宅録音チーム別に月１回の定例勉強会を実施しています。
★校正者/デイジー校正者/編集者の勉強会も今後予定します。

○カセット再生機を新しいものを。

★購入します。

○校正の講習会を音訳の習熟度別に実施して欲しい。
国会図書館の仕事で音訳の流れが遅くなっています。音訳校正編集作業の流れ・体制の見直しを行いスムースな作業がおこなえるようにして欲しい

★習熟度別の勉強会は現在のところ予定していませんが、スムーズな作業が行えるよう検討していきます。

○Recdiaで録音する場合、まず騒音測定とテスト録音を行っています。「テスト録音は不要」という声も聞きますが、またそれはなぜですか。

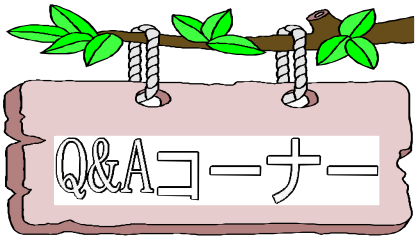
★テスト録音は、本人の声とまわりの雑音の音量を区別してフレーズを切っていくのに必要な作業です。テスト録音が完了していない場合は、元の音量と録音音量が同じ（が無効）になります。テスト録音が正しく完了して初めて、情文スタジオ用に設定している「ボリューム２５%UP」の音量になります。
★テスト録音しなくても、録音は可能ですが、その録音環境は前の人の行った時の環境です、空調の音や録音レベルなどで条件は変わりますので毎回実施するようにしてください。
★テスト録音は発声練習も兼ねて、「あ、え、い、う、え、お、あ、お」などを繰り返すといいでしょう。

自宅録音チーム（火曜）

マトリョーシカ

２００６年春講習を終えたばかりの駆け出しグループ。最初に手にした本のほとんどがロシア関係のブックレットだったのにちなんでこの名が付きました。
２０代から６０代の女性ばかり、第二火曜日の定例会ではついついおしゃべりに花を咲かせてしまい、先輩指導者の山下さん・小林さんを困らせています。
当初１４名だったメンバーも出産・仕事・地域活動などで減ってしまいましたが、今回のグループ再編でベテランの音声訳者・編集者の方に加わっていただき、共同製作もスタートするとか・・・。定例会が文字通りの勉強会になる日も近いと、期待しています。まだまだ戸惑うことばかり、見かけられましたらぜひお声をかけてください。
（松井）

定例の勉強会

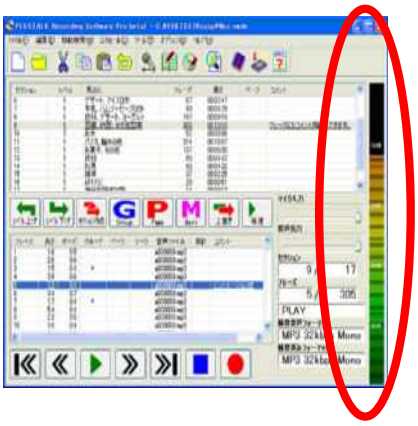


Q PRSProがバージョンアップされたと聞きましたがどんな点がかわったのでしょうか？

A 以下の4点が強化されています。

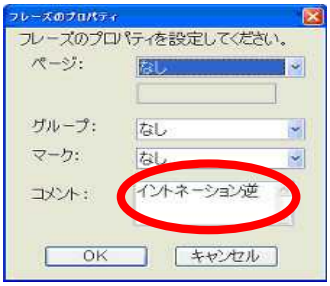
① 音量レベルメータの大型化

画面右側に縦に配置することで大型化しました。これにより、録音レベルの調整がしやすくなります。



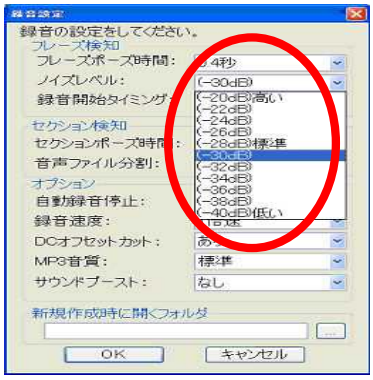
② フレーズへのコメント入力に対応

フレーズにコメント欄が追加になり、校正情報等がフレーズ毎に記入可能となります。



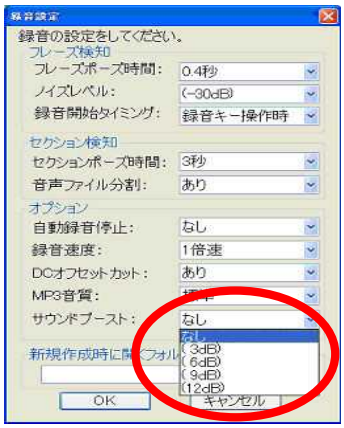
③ ノイズレベル設定値の変更

従来は、高い・標準・低いの3種類のみでしたが、新バージョンでは、2dB単位で細かい設定ができるようにします。これによりフレーズ検出精度の向上と、先頭部分の音声検出が改善され、頭切れを防止できます。



④ サウンドブースト機能

従来は、使用しているオーディオデバイスによってばらつきがあり、録音音量を最大にしても充分な音声レベルが得られない場合がありました。サウンドブースト機能では、指定した値で音量をアップすることができます。これにより自然な朗読音量での録音を実現します。



各担当者への連絡事項

週刊新潮の音声訳担当者

★来館時にはかならず、「週刊新潮の専用棚」を見るようにしましょう

○週刊新潮の7月以降の予定表ができています。各自お持ち帰り下さい。
○「目次ファイル」「調査ファイル」「校正綴りファイル」「各担当グループ別ボックス」を所定の録音４タジオの横に設置しました。
○校正表は各担当者は全員目を通してください。自分の担当号で校正表で指摘された事項を確認された方は校正表のチェック欄に印をしてください。
○また、校正表には「利用者からの指摘表」も付けていますので目を通すようにしてください。

スタジオ音声訳者

★スタジオを移動して録音したら、データを元に戻す依頼をしましょう。

○スタジオで蔵書録音している方は、必ず、所定のスタジオを決めて下さい。受付に張り出してある「スタジオ割り振り表」に記入しています。記入されていない方は係にご連絡ください。
○所定のスタジオから移動して録音した場合は、その日に所定のスタジオに戻す依頼を職員にして下さい。校正作業や編集作業でトラブルが多発しています。
○予定表は1ヶ月まえに出しています。当月になっても予定表に記入されていない方は「×」扱いとします。他の方が入ることがあります。予定表には早めにご記入ください。

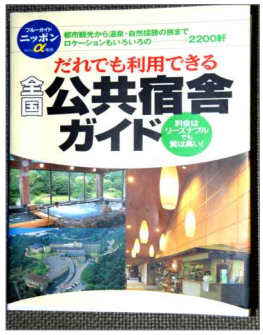
デイジー編集者（自宅）

○デイジー編集用のソフト（PROPro）がバージョンアップしています。（本号P３参照）情文の編集パソコンは既に完了しています、自宅で編集されている方もバージョンアップをしていただきます。自分でできる方はバージョンアップ用のCDをお渡しします。出来ない方はパソコンをご持参ください。尚、パソコンを持参されます方は事前にご連絡ください。

電話　06-6211-0910（録音製作直通）

自宅録音チームの皆さん

今年度の共同製作作品が決まりました



『全国公共宿舎ガイド～だれでも利用できる～』（実業之日本社　543ページ　2007年版）を 今年度の自宅録音チームの共同製作原本として取り組むことにしました。自宅録音チーム（「マトリョーシカ」「はなみずき」「二十四の瞳」）全員で製作することにしましたのでよろしくお願いします。

とりあえず、「近畿編」を「２４の瞳」、「北海道編」を「はなみずき」が先行して製作していきます。「マトリョーシカ」も、次回に検討し担当するところを決めていきます。「各編」単位に利用者には発表していきます。全部、完成した段階で1冊にまとめて発表していく予定です。

「ろくおん通信」はホームページで見れます

「ろくおん通信」は「No.１４７号」より、日本ライトハウス盲人情報文化センターのホームページで見ることができるようになりました。下記のアドレスから、「録音製作のご案内」で見ることができます。

http://www.iccb.jp/index.html